

北海道旅客船協会 65年のあゆみ



北海道旅客船協会

発刊にあたって

北海道旅客船協会は、昭和21年2月に北海道海運振興会として発足し、昭和24年名称を北海道定期船協会と改め、さらに昭和34年8月には現在の北海道旅客船協会となり本年で65周年を迎えました。

発足当時は、離島及び準離島と呼ばれた生活航路、港湾が未整備の時代の港内通船が主な航路でありましたが、昭和30年代からの高度成長期には製造業を中心とした生産拡大、購買力の増大による旅行ブームの到来などにより、本道と本州を結ぶフェリー航路の開設、増大する観光客に対応した湖沼航路の整備などが進みました。

昭和50年代からの安定成長期には、北海道～本州航路及び離島航路にフェリーが就航し、人流、物流の重要な交通機関となりましたが、一方で港湾の整備や道路の開通などにより、準離島航路や港内通船航路は、航路の廃止や縮小、事業の見直しを余儀なくされました。

平成年代に入り低成長期を迎えましたが、本道の恵まれた自然環境、豊かな食などを求めて観光客の入り込みが増加し、旅客の輸送量はピークとなり、北海道～本州航路や離島航路におけるフェリーの大型化、観光航路の新增設が相次ぎました。

しかしながら、バブル経済崩壊以降、長引く景気低迷、少子高齢化や過疎化の著しい進展、さらには、利用者ニーズの多様化、個人やグループを中心とした旅行形態の変化などにより、各航路とも輸送量が軒並み減少し、かつてない厳しい時代を迎えております。

このような状況を踏まえ、北海道旅客船協会としましては、協会発足65周年にあたり、先人の築いた足跡を辿るとともに、環境の変化に迅速かつ的確に対応し、さらなる旅客航路事業の健全な発展のために努めて参りたいと考えております。

引き続き、会員及び関係者の皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

終わりに、本記念誌作成にあたりご協力いただきました関係各位に対しまして衷心よりお礼を申し上げます。

平成23年10月

北海道旅客船協会 会長 蔦井 孝典

北海道旅客船協会 65年のあゆみ

年 (西曆)	北海道旅客船協会のあゆみ	関連する主なできごと
昭和20年代 (1945年～)		
昭和21年(1946)	2月 北海道において旅客船事業を営む11社が北海道海運振興会を結成	
昭和24年(1949)	4月 名称を北海道定期船協会と改める 会長に蔦井與三吉氏就任	6月 海上運送法公布(8月施行)
昭和26年(1951)		2月 日本定期交通船協会設立(国内旅客船事業の全国団体)
昭和27年(1952)		4月 日本定期船協会と改称(翌年4月、社団法人となる) 7月 離島航路整備法公布施行
昭和28年(1953)		4月 船客傷害賠償保険制度創設 日本定航保全(株)設立 7月 海上運送法の一部改正(保険契約締結命令、5ト未満の船舶の適用)
昭和29年(1954)	5月 蔦井與三吉会長が(社)日本定期船協会副会長に就任	9月 台風15号により「洞爺丸」など青函連絡船5隻が沈没
昭和30年代 (1955年～)		
昭和30年(1955)		4月 海上運送法の一部改正(旅客不定期航路事業が許可制となる)
昭和33年(1958)	12月 北海道離島航路整備株式会社設立	
昭和34年(1959)	8月 北海道定期船協会を北海道旅客船協会と改称	3月 国内旅客船公団法公布施行(共有船方式導入) 6月 日本定期船協会が社団法人日本旅客船協会と改称
昭和36年(1961)	12月 菱中興業(株)が支笏湖における一般旅客定期航路事業(湖畔～モーラップ航路)を支笏湖観光運輸(株)に譲渡	4月 国内旅客船公団が特定船舶整備公団と改称
昭和37年(1962)	3月 北海道旅客船協会「会報」創刊 4月 北海道旅客船協会の事務所を現在地に移転 昭和37年度定時総会開催(小樽市:北海海運局)(会員数:北海道旅客船協会10社、北海道港湾通船協会5社、北海道平水旅客船協会21社) 大沼において旅客不定期航路事業を営む大沼観光船(株)と函館バス(株)が、大沼合同遊船(株)を設立 6月 道東観光開発(株)、知床観光遊覧(株)に知床半島航路の一般旅客航路事業の免許 8月 礼文島、船泊運輸(株)の海馬島及び礼文島西海岸周遊の不定期航路事業許可 9月 野付観光(株)が野付湾周遊不定期航路事業を(有)野付遊覧船から譲受	

年(西暦)	北海道旅客船協会のあゆみ	関連する主なできごと
昭和39年(1964)	7月 道南海運(株)の函館～下北(大間)航路に、北海道初のフェリー「大函丸」(451トン、旅客定員256人、積載車両大型8台又は小型20台)が就航	10月 東京オリンピック開催 東海道新幹線開業
昭和40年代(1965年～)		
昭和40年(1965)	3月 道南海運(株)と青森県陸連業者が東日本フェリー(株)を設立 5月 昭和40年度定時総会開催(洞爺湖温泉:万世閣) 6月 道南海運(株)が函館～下北航路を東日本フェリー(株)に譲渡 8月 東日本フェリー(株)のフェリー第2大函丸(479トン、旅客定員336人)函館～下北航路に就航	5月 室蘭港でノルウェーのタンカー「ヘイムバルド号」が火災、室蘭通船(株)の「港隆丸」が沈没し、2名が犠牲となる 6月 海上運送法の一部改正(自動車航送の定義、運賃・料金の明確化)
昭和41年(1966)	5月 昭和41年度定時総会開催(小樽市:ホテル天望閣)(正会員数31社)	12月 特定船舶整備公団が船舶整備公団と改称
昭和42年(1967)	5月 昭和42年度通常総会開催(札幌市定山溪:定山溪ホテル)(正会員数29社) 道南海運(株)が青森～函館、青森～室蘭航路開設、フェリー就航 6月 湖沼遊覧船の大型化が進み、洞爺湖及び阿寒湖に旅客定員290～420人の遊覧船が就航 道南海運(株)の江差～奥尻間にフェリー「奥尻丸」(306トン、旅客定員200人)就航 10月 道東観光開発(株)が羅臼運輸(株)と合併し、道東観光開発(株)が存続会社となる	12月 年末年始輸送における交通安全総点検が始まる
昭和43年(1968)	3月 道南海運(株)、青森商船(株)及び東日本フェリー(株)の3社が、フェリー部門を集約し、東日本フェリー(株)に統合 5月 昭和43年度通常総会開催(阿寒町:山浦ホテル)(正会員数29社) 6月 東日本フェリー(株)の函館～大間航路にフェリー就航 道南海運(株)のフェリー部門を東日本フェリー(株)に譲渡	5月 十勝沖地震発生(死者・行方不明52人)
昭和44年(1969)	6月 昭和44年度通常総会開催(岩内町:ホテル雷電)(正会員数28社) 7月 東日本フェリー(株)が函館～野辺地航路開設、フェリー「第5青函丸」(997トン、旅客定員400人)就航	
	<p>北海道観光連盟のアンケート調査(昭和44年開催「北海道観光展」東京など5会場)で「北海道で行きたい観光地」の第1位に阿寒湖になる</p> <p>東京会場 ①阿寒湖 ②札幌 ③大雪山 ④知床 ⑤網走 大阪会場 ①阿寒湖 ②札幌 ③摩周湖 ④洞爺湖 ⑤網走 名古屋会場 ①阿寒湖 ②札幌 ③知床 ④大雪山 ⑤摩周湖</p>	
昭和45年(1970)	4月 稚内利礼運輸(株)の稚内～利礼航路にフェリー「第一宗谷丸」(537トン、旅客定員500人)就航 5月 洞爺湖汽船(株)が旅客不定期航路事業を開始	10月 海上運送法の一部改正(運航管理制度の導入)

年 (西曆)	北海道旅客船協会のあゆみ	関連する主なできごと
	<p>6月 昭和45年度通常総会開催(尻岸内町:恵山高原ホテル)(正会員数29社)</p> <p>7月 道路開通等による岩内～川白、増毛～雄冬航路の廃止について、航路補償の要望書を日本旅客船協会に提出</p> <p>8月 新日本海フェリー(株)が小樽～舞鶴航路開設、国内最大のフェリー「すずらん丸」(9,053トﾝ、旅客定員1,105人)就航</p> <p>10月 東日本フェリー(株)の室蘭～大間航路、戸井～大間航路免許 函館商船(株)の函館～野辺地航路免許</p> <p>9月～ 旅客船事故が相次ぐ</p> <p>12月 9月: 羅臼港で「オホーツク」プロパンガスボンベ爆発 11月: 「新おたる丸」礼文町船泊港で岸壁衝突 12月: 焼尻港沖合で「天羽丸」運搬船と衝突、相手船沈没</p>	
昭和46年(1971)	<p>5月 函館商船(株)の函館～野辺地航路開設、フェリー「第10函館丸」(1,495トﾝ、旅客定員400人)就航</p> <p>6月 昭和46年度通常総会開催(網走市:網走観光ホテル)(正会員数28社) 洞爺湖に船舶整備公団共有船「羊蹄」(346トﾝ、旅客定員654人)が就航 北海道旅客船協会の事務局長が専任制となる 阿寒湖の旅客輸送実績が年間50万人を突破(洞爺湖:47万人)</p>	7月 東亜国内航空「ばんだい号」函館北方横津岳に墜落
昭和47年(1972)	<p>1月 稚内利礼運輸(株)は道南海運(株)の旅客航路部門を譲受し、東日本海フェリー(株)に社名変更</p> <p>2月 フェリーの安全対策推進のため、苫小牧港及び函館港に「カーフェリー連絡調整協議会」を設置</p> <p>4月 日本沿海フェリー(株)が苫小牧～東京航路、近海郵船(株)が釧路～東京航路開設</p> <p>5月 昭和47年度定期総会開催(札幌市定山溪:鹿の湯ホテル)(正会員数31社)</p> <p>6月 洞爺湖内の安全確保を図るため「洞爺湖水域安全運航協会」設置 阿寒湖に「まりも丸」(186トﾝ、旅客定員460人)、「すずらん丸」(220トﾝ、旅客定員480人)就航 知床航路に「エルム号」(199トﾝ、旅客定員350人)就航</p> <p>9月 日本旅客船協会合同役員会を札幌パークホテルで開催 厚岸大橋の完成により日本道路公団の厚岸～真竜航路廃止</p>	2月 札幌オリンピック冬季大会開催 7月 海上交通安全法公布
昭和48年(1973)	<p>2月 北海道重要港湾協議会(道内8重要港湾管理者)に入港料新設反対の要望書提出</p> <p>4月 太平洋沿海フェリー(株)が苫小牧～仙台～名古屋航路開設</p>	5月 日本長距離フェリー協会設立 10月 第一次石油危機

年（西暦）	北海道旅客船協会のあゆみ	関連する主なできごと
	<p>シルバーフェリー(株)が苫小牧～八戸航路開設</p> <p>6月 昭和48年度定期総会開催(東利尻町:ホテルしばた)(正会員数29社)</p> <p>9月 稚内市主催サハリン親善視察団が東日本海フェリー(株)の「利礼丸」(135ト)でネベリスクを訪問</p> <p>北海道離島航路連絡協議会が発足(北海海運局、道、東利尻町、北海道旅客船協会等)</p> <p>中・長距離フェリー5社が賛助会員として入会</p> <p>12月 新東日本フェリー(株)が苫小牧～仙台航路開設、「べが」(6,702ト、旅客定員712人)就航</p>	
昭和49年(1974)	<p>1月 燃料油確保、価格維持等に対処するため「北海道旅客船協会燃料対策特別委員会」発足</p> <p>5月 北海道初の海底観賞船「乙姫」(197ト、定員225人)が知床航路に就航</p> <p>両島運輸(株)羽幌～焼尻～天売航路に「第3天羽丸」(369ト、旅客定員600人)就航</p> <p>6月 昭和49年度通常総会開催(洞爺湖温泉:ホテルグランドトーヤ)(正会員数33社)</p> <p>8月 日本沿海フェリー(株)苫小牧～東京航路に「さっぽろ丸」(11,097ト、旅客定員808人)就航</p> <p>12月 北海道旅客船協会初代会長蔦井與三吉氏逝去</p>	<p>1月 日本小型船舶検査機構設立</p> <p>11月 「遊漁船の海上運送法上の取扱いについて」(法の規制対象外)閣議了解される</p>
昭和50年代（1975年～）		
昭和50年(1975)	<p>3月 北海道の通年観光に関し、北海海運局長に要望書提出</p> <p>北海道旅客船協会会長に東日本フェリー(株)蔦井政信社長就任</p> <p>5月 大沼に「おおぬま」(34ト、旅客定員116人)就航</p> <p>洞爺湖に「幸福」(198ト、旅客定員544人)就航、これにより公団船3隻(「朝風」、「羊蹄」、「幸福」となり、洞爺湖の船舶は大型化される</p> <p>6月 昭和50年度通常総会開催(羽幌町天売島:ホテル大一)(正会員数33社)</p> <p>8月 東日本フェリー(株)が苫小牧～八戸航路開設、「びなす」(3,472ト、旅客定員400人)就航</p>	
昭和51年(1976)	<p>6月 昭和51年度通常総会開催(函館市:函館国際ホテル)(正会員数31社)</p> <p>運航管理規程及び運航基準の一部改正のため「運航中止条件検討委員会」が設置される(海運局、一管本部、札幌管区气象台、旅客船事業者等で構成)</p> <p>同年9月北海海運局長に答申</p> <p>東日本フェリー(株)が全国初の専用VHF海岸無線局開設</p> <p>9月 サハリン墓参(ホルムスク)に東日本フェリー(株)の「第6大函丸」(786ト)を使用</p> <p>12月 礼文島金田ノ岬で「新おたる丸」座礁、東日本海フェリー「第3利礼丸」を代船として使用</p>	<p>3月 運航管理規程及び運航基準の一部改正(運航中止基準の届出等)</p>

年（西暦）	北海道旅客船協会のおゆみ	関連する主なできごと
昭和52年(1977)	<p>1月 北海道旅客船協会に観光部会設置</p> <p>4月 東日本海フェリー(株)が、稚内～サハリン(ホルムスク)間に貨物不定期航路開設</p> <p>5月 北海道の重要港湾において、内航船1総トン当たり80銭の入港料が新設される</p> <p>6月 昭和52年度通常総会開催(阿寒町:ホテル阿寒湖荘)(正会員数30社) 阿寒湖に「ましゅう丸」(187トン、旅客定員460人)就航 知床航路に「ライラック」(215トン、旅客定員350人)就航</p> <p>7月 東日本海フェリー(株)が瀬棚～奥尻航路を開設、「第2大函丸」(483トン、旅客定員331人)就航</p> <p>8月 有珠山の噴火により、8月7日から9月22日まで洞爺湖内の全航路が運休となる</p>	<p>6月 海上衝突予防法公布(7月施行) 船員災害防止実施計画において「安全衛生デー」が設定される</p> <p>8月 有珠山噴火</p>
昭和53年(1978)	<p>6月 昭和53年度通常総会開催(網走市:網走観光ホテル)(会員数:正会員28社、賛助会員8社) 共同通船(株)が小樽～祝津～オタモイ航路開設、「うしお」(118トン、旅客定員160人)就航</p> <p>11月 東日本フェリー(株)の室蘭～八戸航路が免許(翌年5月から運航開始)</p>	
昭和54年(1979)	<p>3月 北海道旅客船協会に安全対策委員会設置</p> <p>5月 新日本海フェリー(株)の小樽フェリーターミナル竣工、「ニューすずらん」(14,385トン、旅客定員872人)就航</p> <p>6月 昭和54年度通常総会開催(稚内市:稚内サンホテル)(会員数:正会員25社、賛助会員8社) 沖縄旅客船協会一行16名が来道、離島航路振興策等について懇談</p> <p>9月 北海道旅客船協会表彰規程が制定される</p>	1月 第二次石油危機
昭和55年(1980)	<p>4月 洞爺湖に北海道初のFRP製の旅客船「高速801」(18トン、旅客定員55人)が就航</p> <p>5月 昭和55年度通常総会開催(奥尻町:ホテル洋々荘)(会員数:正会員23社、賛助会員7社)</p>	
昭和56年(1981)	<p>3月 北海道旅客船協会部会運営要綱を制定</p> <p>5月 昭和56年度通常総会開催(札幌市定山溪:章月グランドホテル)(会員数:正会員24社、賛助会員7社)</p> <p>6月 小樽～利札航路にフェリー「おたる丸」(998トン、旅客定員240人)就航 (有)積丹海上観光が美国～積丹岬周遊の不定期航路事業を開始</p>	10月 国鉄石勝線開業(千歳～新得間)
昭和57年(1982)	<p>5月 昭和57年度通常総会開催(七飯町大沼:大沼太平洋ホテル)(会員数:正会員25社、賛助会員7社) 韓国海運組合の旅客船業界視察団8名が来道、仙台～苫小牧航路のフェリー、洞爺湖の遊覧船等に乘船、札幌において協会役員と意見交換会を行う</p>	

年 (西暦)	北海道旅客船協会のあゆみ	関連する主なできごと
	(株)小樽観光振興公社が小樽～祝津～オタモイ航路を開設 10月 (社)日本旅客船協会合同役員会が、函館市(湯の川観光ホテル)で開催される	
昭和58年(1983)	5月 昭和58年度通常総会開催(釧路市:旅テル市川)(会員数:正会員25社、賛助会員7社) 9月 大韓航空機遭難海域へ遺族の洋上供養のため、東日本海フェリー(株)の「第5宗谷丸」(790ト)が運航(9月4日～21日、8航海)	9月 大韓航空機がサハリン上空でソ連軍機に撃墜される
昭和59年(1984)	2月 東日本海フェリー(株)の「流水を見る船」が2月～3月の土日に運航 5月 昭和59年度通常総会開催(虻田町洞爺湖温泉:ホテルグランドトーヤ)(会員数:正会員25社、賛助会員7社)	7月 北海海運局と札幌陸運局が統合し、北海道運輸局となる
昭和60年代 (1985年～)		
昭和60年(1985)	3月 東日本フェリー(株)が室蘭～大洗航路開設 日本沿海フェリー(株)が苫小牧～大洗航路開設 5月 昭和60年度通常総会開催(函館市:若松)(会員数:正会員24社、賛助会員7社) 7月 笹井海運(株)が社名変更し、北日本海運(株)となる 9月 積丹観光協会が美国～ビヤノ岬周遊の不定期航路事業開始 11月 神威航運(株)の岩内～川白航路が廃止(準離島航路)	
昭和61年(1986)	5月 昭和61年度通常総会開催(室蘭～大洗航路「ばるな」船上)(会員数:正会員24社、賛助会員7社)	9月 標準運送約款が導入
昭和62年(1987)	6月 昭和62年度通常総会開催(東利尻町鴛泊:北国グランドホテル)(会員数:正会員24社、賛助会員7社) 朱鞠内観光汽船(株)が朱鞠内湖において不定期航路事業を開始	
昭和63年(1988)	6月 昭和63年度通常総会開催(網走市:網走観光ホテル)(会員数:正会員25社、賛助会員7社) 7月 (株)小樽観光振興公社が小樽～余市～積丹岬周遊の不定期航路事業を開始、北海道初のホーバークラフト型「マリンライナー」(44ト、旅客定員92人、航海速力28ノット)が就航	3月 青函連絡船廃止、青函トンネル開業
平成元年～9年 (1989年～1997年)		
平成元年(1989)	1月 紋別市が流水観光航路の不定期航路事業開始、「ガリンコ号」(39ト、旅客定員70人)就航 4月 消費税導入により運賃・料金改定相次ぐ 6月 平成元年度通常総会開催(札幌市:蔦井ビル)(会員数:正会員27社、賛助会員7社) 6月～7月 新造船が相次いで就航 6月 東日本海フェリー(株)稚内～利礼航路、「ニュー宗谷」(3,178ト、旅客定員650人)	4月 消費税導入

年 (西暦)	北海道旅客船協会のあゆみ	関連する主なできごと
	<p>両島運輸(株)羽幌～焼尻・天売航路に「フェリーおろろん」(450トﾝ、旅客定員340人)が就航し、北海道の離島航路がすべてフェリー化となる</p> <p>7月 東日本フェリー(株)大洗～室蘭航路、「びくとり」(17,113トﾝ、旅客定員680人)</p> <p>協立海上運輸(株)釧路～納沙布岬間、「シーグレース」(199トﾝ、旅客定員200人)</p> <p>大阪緑風観光(株)屈斜路湖周遊、「チニタ」(18トﾝ、旅客定員79人)「ピリカ」(18トﾝ、旅客定員70人)</p> <p>7月 協立海上運輸(株)が東北海道周遊航路(釧路～納沙布岬沖、霧多布沖、厚岸沖)開設</p> <p>昭和海運(株)が北海道周遊(クルージング船)航路を開設</p>	
平成2年(1990)	<p>6月 平成2年度通常総会開催(七飯町大沼:ホテルニットー大沼)(会員数:正会員27社、賛助会員7社)</p> <p>蔦井政信会長が(社)日本旅客船協会副会長に就任</p> <p>天売島、焼尻島に海底探勝船就航</p> <p>羽幌天売観光船(株)、「おろろん」(16トﾝ、旅客定員51人)、「第8オロロン丸」(11トﾝ、旅客定員96人)</p> <p>(有)焼尻海底探勝船、「かもめ」(17トﾝ、旅客定員51人)</p> <p>東日本フェリー(株)が岩内～直江津～室蘭航路を開設、「へるめす」(13,384トﾝ、旅客定員700人)就航</p> <p>7月 大阪緑風観光(株)が屈斜路湖探勝航路(湖底探勝船)の不定期航路事業開始</p> <p>11月 東日本フェリー(株)のジェットホイル「ゆにこん」(163トﾝ、旅客定員233人)が函館～青森間に就航</p> <p>12月 苫小牧～八戸航路に東日本フェリー(株)の「べが」(6,340トﾝ、旅客定員600人)就航</p>	
平成3年(1991)	<p>1月 道東観光開発(株)が流水観光航路開設、「おーら」(491トﾝ、旅客定員420人)就航</p> <p>4月 両島運輸(株)の高速船「さんらいな」(149トﾝ、旅客定員200人、航海速力25ノット)が羽幌～焼尻・天売間に就航</p> <p>5月 東日本海フェリー(株)の「ニューひやま」(2,126トﾝ、旅客定員540人)が江差～奥尻航路に就航</p> <p>グラスボート利尻(株)が杓形～タネトンナイ航路等の不定期航路事業を開始、海底探勝船「はまなす」(16トﾝ、旅客定員51人)が就航</p> <p>6月 平成3年度通常総会開催(東日本フェリー(株)「へるめす」船上)(会員数:正会員29社、賛助会員7社)</p> <p>7月 東日本フェリー(株)の「びるたす」(6,327トﾝ、旅客定員800人)が室蘭～青森航路に就航</p>	7月 超高速船の夜間航行が認められる

年(西暦)	北海道旅客船協会のあゆみ	関連する主なできごと
	<p>乙部町が元和漁港～鮪の岬航路等の不定期航路事業開始、海底探勝船「マリンスター」(16トン、旅客定員46人)が就航</p> <p>根室観光汽船(株)が根室～尾岱沼航路の不定期航路事業開始、「ペニンストラ」(19トン、旅客定員74人)就航</p>	
平成4年(1992)	<p>1月 北海道旅客船協会「会報」第100号発行 両島運輸(株)が社名変更し、羽幌沿海フェリー(株)となる</p> <p>2月 共同通船(有)が定期・不定期航路事業を廃止</p> <p>4月 東日本フェリー(株)の「はあきゆり」(13,403トン、旅客定員703人)岩内～直江津～室蘭航路に就航</p> <p>5月 国道整備により、雄冬海運(株)の増毛～雄冬航路廃止(準離島航路)</p> <p>6月 平成4年度通常総会開催(羽幌町:町立中央公民館)(会員数:正会員31社、賛助会員8社) 東日本海フェリー(株)の「クイーン宗谷」(3,197トン、旅客定員650人)稚内～利礼航路に就航</p> <p>8月 日ロ間フェリー定期航路開設に向けた試験運航実施(新潟～小樽～コルサコフ) 使用船舶:東日本フェリー(株)「びるたす」(6,327トン)</p>	
平成5年(1993)	<p>4月 洞爺湖汽船(株)の双胴型旅客船「エスポアール」(401トン、旅客定員700人)就航</p> <p>5月 (株)シノヤマ観光自動車が地球岬周遊航路、白鳥大橋周遊不定期航路事業を開始</p> <p>6月 平成5年度通常総会開催(札幌市定山溪:定山溪グランドホテル)(会員数:正会員30社、賛助会員8社)</p> <p>7月 東日本フェリー(株)の「へすていあ」(13,539トン、旅客定員703人)室蘭～大洗航路に就航</p> <p>9月 (株)ブルーハイウェイラインの「さんふらわみと」(11,782トン、旅客定員514人)苫小牧～大洗航路に就航</p> <p>12月 北海商船(株)の小樽～利礼航路が廃止、約100年の航路の歴史に幕を閉じる</p>	<p>7月 小樽市において北海道初の「海の祭典」(第8回)開催 北海道南西沖地震発生</p>
平成6年(1994)	<p>4月 北海道運輸局から「北の海と湖の連合共和国」構想が提案される 新日本海フェリー(株)の小樽新フェリーターミナル竣工</p> <p>6月 平成6年度通常総会開催(釧路市:釧路全日空ホテル)(会員数:正会員30社、賛助会員8社)</p>	<p>10月 北海道東方沖地震発生</p>
平成7年(1995)	<p>3月 日ロフェリー定期航路利用促進協議会が設立</p> <p>5月 サハリン船舶会社の「サハリン7号」(5,025トン)が小樽～コルサコフ、稚内～コルサコフ間を運航(5月～9月、22航海)</p> <p>6月 平成7年度通常総会開催(札幌市:ホテルロイトン)(会員数:正会員29社、賛助会員8社)</p>	<p>1月 阪神・淡路大震災発生</p> <p>5月 海上運送法の一部改正施行(運賃料金の届出等)</p>
平成8年(1996)	<p>5月 平成8年度通常総会開催(洞爺湖温泉:ホテル万世閣)(会員数:正会員28社、賛助会員8社)</p>	<p>7月 7月20日が国民の祝日「海の日」となる</p>

年(西暦)	北海道旅客船協会のあゆみ	関連する主なできごと
	9月 小樽～敦賀航路に高速新造船2隻「すずらん」(17,345トン、旅客定員507人)、「すいせん」(17,329トン、旅客定員507人)が就航し、デイリー運航となる	
平成9年(1997)	6月 平成9年度通常総会開催(函館市:ホテル函館ロイヤル)(会員数:正会員27社、賛助会員8社) 東日本フェリー(株)の高速ディーゼルエンジン「ゆにこん」(1,498トン、旅客定員423人)就航 7月 東日本海フェリー(株)の「アインズ宗谷」(2,267トン、旅客定員620人、国際航海)が就航 8月 野付観光汽船(株)が事業合併し、(株)別海町観光開発公社となる	10月 船舶整備公団が鉄道整備基金と統合し運輸施設整備事業団となる 11月 北海道拓殖銀行が経営破綻
平成10年代(1998年～)		
平成10年(1998)	4月 (株)マルカツ興産の「ブルームーン」(199トン、旅客定員200人)が就航 5月 (株)まるみが羅臼沖合航路及び標津方面航路の遊覧旅客不定期航路事業を開始 (株)積丹観光振興公社の「ニューしゃこたん号」(19トン、旅客定員78人)が就航 6月 平成10年度通常総会開催(阿寒町:ホテルエメラルド)(会員数:正会員27社、賛助会員8社) 7月 新日本海フェリー(株)が苫小牧～秋田～新潟～敦賀航路を開設	
平成11年(1999)	5月 東日本海フェリー(株)が稚内～ロシア(コルサコフ)航路を開設 6月 平成11年度通常総会開催(札幌市定山溪:ホテルミリオオーネ)(会員数:正会員26社、賛助会員7社)	6月 海上運送法の一部改正(需給調整規制の廃止等)が公布(翌年10月施行)
平成12年(2000)	3月 有珠山噴火により洞爺湖内航路は、5月4日まで運休 5月5日から、向洞爺～中島間運航、7月20日から平常運航 5月 平成12年度通常総会開催(網走市:網走観光ホテル)(会員数:正会員25社、賛助会員7社) 10月 改正海上運送法の施行により、自動車航送貨物定期航路事業者3社(道南自動車フェリー、共栄運輸、北日本海運)が一般旅客定期航路事業に移行 フェリー航路等の休止が相次ぐ ・岩内～直江津航路 (平成12年1月～平成13年1月) ・苫小牧～仙台航路 (平成12年1月～平成13年3月) ・釧路～十勝～東京航路 (平成11年11月～平成12年11月) ・苫小牧～大洗～東京航路 (平成12年4月～平成12年9月) ・福島～三厩航路 (平成12年7月～平成12年8月)	1月 コンピュータ2000年問題 3月 有珠山噴火

年（西暦）	北海道旅客船協会のおゆみ	関連する主なできごと
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室蘭～大畑航路 （平成12年4月～平成12年9月） ・ 函館～青森航路（高速船「ゆにこん」） （平成12年4月～平成12年9月） 	
平成13年（2001）	<ul style="list-style-type: none"> 2月（有）丸は宝来水産が羅臼港沖合周遊の不定期航路事業を開始 4月 北海道デスティネーションキャンペーン実行委員会設立総会 5月（株）別海町観光開発公社が尾岱沼～アラハマワンド航路の不定期航路事業開始 6月 平成13年度通常総会開催（札幌市：札幌パークホテル）（会員数：正会員28社、賛助会員4社） 	1月 省庁再編により運輸省は、国土交通省となる
平成14年（2002）	<ul style="list-style-type: none"> 5月 日口定期航路（稚内～コルサコフ）が32往復から50往復へ大幅増便（10月まで） 平成14年度通常総会開催（札幌市：札幌パークホテル）（会員数：正会員31社、賛助会員4社） 11月 北海道旅客船協会「旅客誘致・宣伝委員会」の初会議を開催 	
平成15年（2003）	<ul style="list-style-type: none"> 4月（株）一映マリーン企画が函館港内外遊覧航路の不定期航路事業開始 5月（株）ビッグブルーが石狩積丹航路の不定期航路事業開始 平成15年度通常総会開催（札幌市：札幌パークホテル）（会員数：正会員30社、賛助会員4社） 9月 臨時総会（札幌市：蔦井ビル） 蔦井政信会長及び小林忠副会長辞任に伴う、後任役員を選任 東日本海フェリー（株）の藤原弘社長が会長に就任 	<ul style="list-style-type: none"> 10月 運輸施設整備事業団が日本鉄道建設公団と統合し独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構となる 11月 北海道クルーズ振興協議会設立総会（室蘭市：「にっぽん丸」船内）
平成16年（2004）	<ul style="list-style-type: none"> 5月 平成16年度通常総会開催（札幌市：札幌第一ホテル）（会員数：正会員28社、賛助会員4社） 9月（社）日本旅客船協会合同役員会開催（札幌市：札幌パークホテル） 12月 第1回北海道旅客船事業活性化懇談会開催 	
平成17年（2005）	<ul style="list-style-type: none"> 1月 北海道デスティネーションキャンペーン実行委員会設立総会 4月（有）ヒットカラーテンが知床半島航路の不定期航路事業開始 5月 平成17年度通常総会開催（稚内市：稚内全日空ホテル）（会員数：正会員28社、賛助会員4社） 平成17年度活性化事業兼総会エキスカーションでサハリン視察 7月 平成17年度第2回理事会において、藤原会長の辞任に伴い会長職務代理者として大西副会長を選任 	7月 知床が世界自然遺産に登録
平成18年（2006）	<ul style="list-style-type: none"> 1月 平成17年度第5回理事会において、蔦井孝典理事を会長に選任 2月 北海道旅客船協会ホームページ開設 	10月 海上運送法の一部改正施行（安全管理規程の届出、安全統括管理者の選任）

年 (西暦)	北海道旅客船協会のあゆみ	関連する主なできごと
	5月 平成18年度通常総会開催(札幌市:札幌プリンスホテル)(会員数:正会員29社、賛助会員5社)	
平成19年(2007)	5月 平成19年度通常総会開催(網走市:網走観光ホテル)(会員数:正会員28社、賛助会員5社) 9月 東日本フェリー(株)の双胴型高速船「ナッチャンrer a」(10,712トンの旅客定員1,746人)が函館～青森航路に就航	
平成20年代 (2008年～)		
平成20年(2008)	1月 東日本海フェリー(株)が社名変更し、ハートランドフェリー(株)となる 5月 平成20年度通常総会開催(札幌市:アートホテルズ札幌)(会員数:正会員29社、賛助会員5社) (株)北見自動車検査センターがサロマ湖一周アザラシ号航路の不定期航路事業開始 東日本フェリー(株)が国内フェリー事業から撤退し、 11月 道南自動車フェリー(株)が事業継承	7月 北海道洞爺湖サミット開催
平成21年(2009)	5月 函館市において、海事振興連盟主催「第7回タウンミーティング」開催 平成21年度通常総会開催(札幌市:すみれホテル)(会員数:正会員27社、賛助会員5社) 6月 蔦井孝典会長が(社)日本旅客船協会副会長に就任 11月 道南自動車フェリー(株)が社名変更し、津軽海峡フェリー(株)となる	4月 新型インフルエンザ流行
平成22年(2010)	5月 平成22年度通常総会開催(札幌市:アートホテルズ札幌)(会員数:正会員27社、賛助会員5社) 10月 北海道観光ビジネスフォーラム2010にブースを出展	1月 船員保険制度が改正され、船員保険の一部が労災保険に統合
平成23年(2011)	1月 北海道デスティネーションキャンペーン実行委員会設立総会 5月 平成23年度通常総会開催(札幌市:ポールスター札幌)(会員数:正会員26社、賛助会員6社)	3月 東日本大震災発生

北海道旅客船協会 歴代役員一覽

役職名	氏 名	会社及び役職
昭和37年度役員		
会 長	薦 井 与三吉	道南海運 (株) 社長
副 会 長	江 野 力	両島運輸 (株) 社長
〃	岩 渕 作 一	阿寒遊覧船 (株) 会長
理 事	大 西 泰 助	北海商船 (株) 社長
〃	松 岡 与 七	稚内利礼運輸 (株) 社長
〃	遠塚谷 信 男	共同通船 (株) 社長
〃	小 林 清	共同通船 (有) 社長
〃	谷 口 嘉 夫	桂沢湖観光 (株) 社長
〃	大 西 長 光	洞爺湖遊覧船 (株) 社長
〃	朝 倉 英 隆	洞爺湖観光船 (株) 社長
〃	柿 崎 忠次郎	支笏湖観光運輸 (株) 社長
〃	須 田 信之助	道南海運 (株) 会長
監 事	坂 本 豊次郎	浜益海運 (株) 社長
〃	富 田 嘉 市	室蘭通船 (株) 社長
〃	山 田 誠 治	女満別遊覧船 (株) 社長
昭和41年度役員		
会 長	薦 井 与三吉	道南海運 (株) 社長
副 会 長	江 野 力	両島運輸 (株) 社長
〃	岩 渕 作 一	阿寒観光汽船 (株) 会長
〃	遠塚谷 信 男	共同通船 (株) 社長
理 事	薦 井 政 信	東日本フェリー (株) 専務取締役
〃	内 山 三 郎	北海商船 (株) 社長
〃	山 本 清一郎	稚内利礼運輸 (株) 社長
〃	小 林 清	共同通船 (有) 社長
〃	相 馬 富 雄	大沼合同遊船 (株) 社長
〃	朝 倉 英 隆	洞爺湖観光船 (株) 社長
〃	大 西 長 光	洞爺湖遊覧船 (株) 社長
〃	柿 崎 忠次郎	支笏湖観光運輸 (株) 社長
〃	須 田 信之助	道南海運 (株) 会長
監 事	竹 内 外 茂	道東観光開発 (株) 社長
〃	富 田 嘉 市	室蘭通船 (株) 社長
〃	山 田 誠 治	女満別遊覧船 (株) 社長
昭和43年度役員		
会 長	薦 井 与三吉	道南海運 (株) 社長
副 会 長	江 野 力	両島運輸 (株) 社長
〃	岩 渕 作 一	阿寒観光汽船 (株) 会長
〃	遠塚谷 信 男	共同通船 (株) 社長
理 事	薦 井 政 信	東日本フェリー (株) 専務取締役
〃	内 山 三 郎	北海商船 (株) 社長
〃	西 野 敏三郎	稚内利礼運輸 (株) 社長
〃	小 林 清	共同通船 (有) 社長
〃	相 馬 富 雄	大沼合同遊船 (株) 社長
〃	朝 倉 英 隆	洞爺湖観光船 (株) 社長

役職名	氏名	会社及び役職
〃	大西長光	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	柿崎忠次郎	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	須田信之助	道南海運(株)会長
監事	竹内外茂	道東観光開発(株)社長
〃	富田嘉市	室蘭通船(株)社長
〃	山田誠治	女満別遊覧船(株)社長
昭和45年度役員		
会長	薦井与三吉	東日本フェリー(株)社長
副会長	岩渕作一	阿寒観光汽船(株)会長
〃	遠塚谷信男	共同通船(株)社長
〃	後藤仙吉	両島運輸(株)社長
理事	益子吉蔵	北海商船(株)社長
〃	左近伝松	稚内利礼運輸(株)専務取締役
〃	薦井政信	東日本フェリー(株)専務取締役
〃	小林清	共同通船(有)社長
〃	相馬富雄	大沼合同遊船(株)社長
〃	朝倉英隆	洞爺湖観光船(株)社長
〃	大西填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	柿崎忠次郎	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	須田信之助	道南海運(株)取締役
監事	堀川勝蔵	道東観光開発(株)社長
〃	富田嘉市	室蘭通船(株)社長
昭和47年度役員		
会長	薦井与三吉	東日本フェリー(株)社長
副会長	遠塚谷信男	共同通船(株)社長
〃	岩渕作一	阿寒観光汽船(株)会長
理事	榎孝一郎	両島運輸(株)社長
〃	中谷竜雄	北海商船(株)常務取締役
〃	左近伝松	東日本海フェリー(株)専務取締役
〃	薦井政信	東日本フェリー(株)専務取締役
〃	小林清	共同通船(有)社長
〃	相馬富雄	大沼合同遊船(株)社長
〃	朝倉英隆	洞爺湖観光船(株)社長
〃	大西填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	柿崎忠次郎	支笏湖観光運輸(株)社長
監事	堀川勝蔵	道東観光開発(株)社長
〃	富田嘉市	室蘭通船(株)社長
昭和49年度役員		
会長	薦井与三吉	東日本フェリー(株)社長
副会長	岩渕作一	阿寒観光汽船(株)会長
〃	遠塚谷信男	共同通船(株)社長
〃	山田正夫	北海道離島航路整備(株)専務取締役
理事	薦井政信	新東日本フェリー(株)専務取締役
〃	中谷龍雄	北海商船(株)常務取締役
〃	榎孝一郎	両島運輸(株)社長
〃	左近伝松	東日本海フェリー(株)専務取締役
〃	堀義蔵	大沼合同遊船(株)社長
〃	朝倉英隆	洞爺湖観光船(株)社長

役職名	氏名	会社及び役職
〃	大西 填 夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	柿崎 忠次郎	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	小林 清	共同通船(有)社長
〃	富田 嘉市	室蘭通船(株)社長
監事	合田 秀雄	函館商船(株)代表取締役
〃	貴志 吉男	道東観光開発(株)専務取締役
昭和51年度役員		
会長	蔦井 政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	岩渕 作一	阿寒観光汽船(株)会長
〃	遠塚谷 信男	共同通船(株)社長
〃	山田 正夫	北海道離島航路整備(株)社長
理事	浦上 正吉	新東日本フェリー(株)副社長
〃	中谷 龍雄	北海商船(株)常務取締役
〃	榎 孝一郎	両島運輸(株)社長
〃	左近 伝松	東日本海フェリー(株)専務取締役
〃	堀 義蔵	大沼合同遊船(株)社長
〃	朝倉 英隆	洞爺湖観光船(株)社長
〃	大西 填 夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	加藤 喜久雄	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	小林 清	共同通船(有)社長
〃	富田 嘉市	室蘭通船(株)社長
監事	目時 和夫	道東観光開発(株)常務取締役
〃	石山 豊	神威航運(株)社長
昭和53年度役員		
会長	蔦井 政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	岩渕 作一	阿寒観光汽船(株)会長
〃	遠塚谷 信男	共同通船(株)社長
〃	山田 正夫	北海道離島航路整備(株)社長
理事	浦上 正吉	新東日本フェリー(株)副社長
〃	中谷 龍雄	北海商船(株)常務取締役
〃	榎 孝一郎	両島運輸(株)社長
〃	左近 伝松	東日本海フェリー(株)専務取締役
〃	堀 義蔵	大沼合同遊船(株)社長
〃	朝倉 英隆	洞爺湖汽船(株)社長
〃	大西 填 夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	加藤 喜久雄	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	小林 清	共同通船(有)社長
〃	富田 嘉市	室蘭通船(株)社長
監事	目時 和夫	道東観光開発(株)常務取締役
〃	石山 豊	神威航運(株)社長
昭和55年度役員		
会長	蔦井 政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	岩渕 作一	阿寒観光汽船(株)会長
〃	山田 正夫	北海商船(株)社長
〃	小林 清	共同通船(有)社長
理事	浦上 正吉	新東日本フェリー(株)副社長
〃	榎 孝一郎	両島運輸(株)社長
〃	蔦井 孝彦	東日本海フェリー(株)社長

役職名	氏名	会社及び役職
〃	川村 秀信	大沼合同遊船(株)社長
〃	朝倉 英隆	洞爺湖汽船(株)社長
〃	大西 填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	加藤 喜久雄	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	富田 嘉市	室蘭通船(株)社長
〃	目時 和夫	道東観光開発(株)常務取締役
監事	石山 豊	神威航運(株)社長
〃	中谷 竜雄	北海商船(株)常務取締役
昭和56年度役員		
会長	薦井 政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	岩渕 作一	阿寒観光汽船(株)会長
〃	小林 清	共同通船(有)社長
〃	沢口 寿	北海道離島航路整備(株)社長
理事	浦上 正吉	新東日本フェリー(株)副社長
〃	榎 孝一郎	両島運輸(株)社長
〃	薦井 孝彦	東日本海フェリー(株)社長
〃	川村 秀信	大沼合同遊船(株)社長
〃	朝倉 英隆	洞爺湖汽船(株)社長
〃	大西 填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	加藤 喜久雄	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	富田 嘉市	室蘭通船(株)社長
〃	目時 和夫	道東観光開発(株)常務取締役
〃	釣 四三	北海商船(株)社長
監事	石山 豊	神威航運(株)社長
〃	飛内 石太郎	雄冬海運(株)社長
昭和57年度役員・・・全員留任		
昭和59年度役員		
会長	薦井 政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	岩渕 作一	阿寒観光汽船(株)会長
〃	沢口 寿	北海道離島航路整備(株)社長
理事	浦上 正吉	新東日本フェリー(株)副社長
〃	榎 孝一郎	両島運輸(株)社長
〃	薦井 孝彦	東日本海フェリー(株)社長
〃	川村 秀信	大沼合同遊船(株)社長
〃	朝倉 英隆	洞爺湖汽船(株)社長
〃	大西 填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	加藤 喜久雄	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	富田 嘉市	室蘭通船(株)社長
〃	目時 和夫	道東観光開発(株)
〃	永井 四郎	北海商船フェリー(株)社長
〃	小林 敏夫	共同通船(有)社長
監事	石山 豊	神威航運(株)社長
〃	飛内 石太郎	雄冬海運(株)社長
昭和61年度役員		
会長	薦井 政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	岩渕 作一	阿寒観光汽船(株)会長
〃	沢口 寿	北海道離島航路整備(株)社長
理事	薦井 孝彦	東日本海フェリー(株)社長

役職名	氏名	会社及び役職
〃	川村 秀信	大沼合同遊船(株)社長
〃	朝倉 英隆	洞爺湖汽船(株)社長
〃	大西 填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	江野 余吉	両島運輸(株)社長
〃	八木 勝男	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	富田 嘉市	室蘭通船(株)社長
〃	鈴木 英介	道東観光開発(株)専務取締役
〃	永井 四郎	北海商船フェリー(株)社長
〃	小林 敏夫	共同通船(有)社長
監事	飛内 石太郎	雄冬海運(株)社長
〃	丹野 正志	協立海上運輸(株)社長
昭和63年度役員		
会長	蔦井 政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	岩 渕 作一	阿寒観光汽船(株)会長
〃	沢口 寿	北海道離島航路整備(株)社長
理事	江野 余吉	両島運輸(株)社長
〃	蔦井 孝彦	東日本海フェリー(株)社長
〃	永井 四郎	北海商船フェリー(株)社長
〃	川村 秀信	大沼合同遊船(株)社長
〃	朝倉 英隆	洞爺湖汽船(株)社長
〃	大西 填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	八木 勝男	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	鈴木 英介	道東観光開発(株)社長
〃	富田 嘉市	室蘭通船(株)社長
〃	小林 敏夫	共同通船(有)社長
監事	飛内 石太郎	雄冬海運(株)社長
〃	丹野 正志	協立海上運輸(株)社長
平成2年度役員		
会長	蔦井 政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	沢口 寿	北海道離島航路整備(株)社長
〃	朝倉 英隆	洞爺湖汽船(株)社長
理事	江野 余吉	両島運輸(株)社長
〃	蔦井 孝彦	東日本海フェリー(株)社長
〃	立崎 烈	北海商船フェリー(株)社長
〃	川村 秀信	大沼合同遊船(株)社長
〃	大西 填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	八木 勝男	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	小林 忠	阿寒観光汽船(株)社長
〃	杉浦 匡	道東観光開発(株)社長
〃	富田 嘉市	室蘭通船(株)社長
〃	小林 敏夫	共同通船(有)社長
顧問	岩 渕 作一	阿寒観光汽船(株)会長
監事	飛内 石太郎	雄冬海運(株)社長
〃	中野 芳孝	協立海上運輸(株)専務取締役
平成4年度役員		
会長	蔦井 政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	沢口 寿	北海道離島航路整備(株)社長
〃	朝倉 英隆	洞爺湖汽船(株)社長

役職名	氏名	会社及び役職
理事	江野余吉	羽幌沿海フェリー(株)社長
〃	薦井孝彦	東日本海フェリー(株)社長
〃	立崎烈	北海商船フェリー(株)社長
〃	石田勉	大沼合同遊船(株)社長
〃	大西填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	八木勝男	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	小林忠	阿寒観光汽船(株)社長
〃	林利幸	道東観光開発(株)社長
〃	富田嘉市	室蘭通船(株)社長
監事	下川部善彦	協立海上運輸(株)社長
平成6年度役員		
会長	薦井政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	沢口寿	北海道離島航路整備(株)社長
〃	朝倉英隆	洞爺湖汽船(株)社長
理事	江野余吉	羽幌沿海フェリー(株)社長
〃	藤原弘	東日本海フェリー(株)社長
〃	石田勉	大沼合同遊船(株)社長
〃	大西填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	八木勝男	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	小林忠	阿寒観光汽船(株)社長
〃	林利幸	道東観光開発(株)社長
〃	富田嘉市	室蘭通船(株)社長
監事	下川部善彦	協立海上運輸(株)社長
平成8年度役員		
会長	薦井政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	朝倉英隆	洞爺湖汽船(株)社長
〃	藤原弘	東日本海フェリー(株)社長
理事	江野余吉	羽幌沿海フェリー(株)社長
〃	石田勉	大沼合同遊船(株)社長
〃	大西填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	八木勝男	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	小林忠	阿寒観光汽船(株)社長
〃	林利幸	道東観光開発(株)社長
〃	富田嘉市	室蘭通船(株)社長
監事	下川部善彦	協立海上運輸(株)社長
平成10年度役員		
会長	薦井政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	朝倉英隆	洞爺湖汽船(株)社長
〃	藤原弘	東日本海フェリー(株)社長
理事	江野余吉	羽幌沿海フェリー(株)社長
〃	石田勉	大沼合同遊船(株)社長
〃	大西填夫	洞爺湖遊覧船(株)社長
〃	伊藤浩一	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	小林忠	阿寒観光汽船(株)社長
〃	林利幸	道東観光開発(株)社長
監事	下川部善彦	協立海上運輸(株)社長
平成11年度役員		
会長	薦井政信	東日本フェリー(株)社長

役職名	氏名	会社及び役職
副会長	藤原 弘	東日本海フェリー(株)社長
〃	小林 忠	阿寒観光汽船(株)社長
理事	江野 余吉	羽幌沿海フェリー(株)社長
〃	石田 勉	大沼合同遊船(株)社長
〃	大西 填夫	洞爺湖汽船(株)会長
〃	伊藤 浩一	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	林 利幸	道東観光開発(株)社長
監事	下川部 善彦	協立海上運輸(株)社長
平成12年度役員		
会長	蔦井 政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	藤原 弘	東日本海フェリー(株)社長
〃	小林 忠	阿寒観光汽船(株)会長
理事	江野 余吉	羽幌沿海フェリー(株)社長
〃	石田 勉	大沼合同遊船(株)社長
〃	大西 填夫	洞爺湖汽船(株)会長
〃	吉田 壽昭	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	林 利幸	道東観光開発(株)社長
監事	下川部 善彦	協立海上運輸(株)社長
平成14年度役員		
会長	蔦井 政信	東日本フェリー(株)社長
副会長	藤原 弘	東日本海フェリー(株)社長
〃	小林 忠	阿寒観光汽船(株)会長
理事	江野 余吉	羽幌沿海フェリー(株)社長
〃	石田 勉	大沼合同遊船(株)社長
〃	大西 填夫	洞爺湖汽船(株)会長
〃	縄田 圭一	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	林 昌利	道東観光開発(株)社長
〃	兵頭 法史	共栄運輸(株)社長
監事	下川部 善彦	協立海上運輸(株)
平成15年度役員(9月～)		
会長	藤原 弘	東日本海フェリー(株)会長
副会長	江野 余吉	羽幌沿海フェリー(株)社長
〃	大西 填夫	洞爺湖汽船(株)会長
〃	石田 勉	大沼合同遊船(株)会長
理事	小野 武	阿寒観光汽船(株)社長
〃	縄田 圭一	支笏湖観光運輸(株)社長
〃	國田 充	道東観光開発(株)社長
〃	兵頭 法史	共栄運輸(株)社長
〃	荒山 勝美	道南自動車フェリー(株)社長
監事	下川部 善彦	協立海上運輸(株)社長
平成16年度役員		
会長	藤原 弘	東日本海フェリー(株)会長
副会長	江野 余吉	羽幌沿海フェリー(株)社長
〃	大西 填夫	洞爺湖汽船(株)会長
〃	石田 勉	大沼合同遊船(株)会長
理事	小野 武	阿寒観光汽船(株)社長
〃	國田 充	道東観光開発(株)社長
〃	兵頭 法史	共栄運輸(株)社長

役職名	氏 名	会社及び役職
〃	荒 山 勝 美	道南自動車フェリー (株) 社長
監 事	下川部 善 彦	協立海上運輸 (株) 社長
平成18年度役員		
会 長	薦 井 孝 典	東日本海フェリー (株) 社長
副 会 長	大 西 填 夫	洞爺湖汽船 (株) 会長
〃	小 野 武	阿寒観光汽船 (株) 社長
専 務 理 事	酒 井 正 人	北海道旅客船協会事務局長
理事相談役	江 野 余 吉	羽幌沿海フェリー (株) 社長
理 事	関 根 二 夫	リベラ (株) 常務執行役員
〃	國 田 充	道東観光開発 (株) 社長
〃	兵 頭 法 史	共栄運輸 (株) 社長
〃	下川部 善 彦	協立海上運輸 (株) 社長
〃	吉野谷 直 廣	道南自動車フェリー (株) 社長
〃	堀 元	大沼合同遊船 (株) 社長
監 事	伊 藤 博 隆	支笏湖観光運輸 (株) 社長
平成20年度役員		
会 長	薦 井 孝 典	ハートランドフェリー (株) 社長
副 会 長	大 西 填 夫	洞爺湖汽船 (株) 会長
〃	小 野 武	阿寒観光汽船 (株) 社長
専 務 理 事	酒 井 正 人	北海道旅客船協会事務局長
理事相談役	江 野 余 吉	羽幌沿海フェリー (株) 社長
理 事	古 閑 信 二	東日本フェリー (株) 社長
〃	國 田 充	道東観光開発 (株) 社長
〃	兵 頭 法 史	共栄運輸 (株) 社長
〃	下川部 善 彦	協立海上運輸 (株) 社長
〃	吉野谷 直 廣	道南自動車フェリー (株) 社長
〃	堀 元	大沼合同遊船 (株) 社長
監 事	鈴 木 義 治	支笏湖観光運輸 (株) 社長
平成22年度役員		
会 長	薦 井 孝 典	ハートランドフェリー (株) 社長
副 会 長	大 西 填 夫	洞爺湖汽船 (株) 会長
〃	小 野 武	阿寒観光汽船 (株) 社長
専 務 理 事	伊 東 直 人	北海道旅客船協会事務局長
理 事	関 根 二 夫	津軽海峡フェリー (株) 社長
〃	兵 頭 法 史	共栄運輸 (株) 社長
〃	下川部 善 彦	協立海上運輸 (株) 社長
〃	田 上 壽 春	道東観光開発 (株) 社長
〃	堀 元	大沼合同遊船 (株) 社長
〃	江 野 英 嗣	羽幌沿海フェリー (株) 社長
監 事	鈴 木 義 治	支笏湖観光運輸 (株) 社長
平成23年度役員		
会 長	薦 井 孝 典	ハートランドフェリー (株) 社長
副 会 長	大 西 填 夫	洞爺湖汽船 (株) 会長
〃	小 野 武	阿寒観光汽船 (株) 会長
専 務 理 事	伊 東 直 人	北海道旅客船協会事務局長
理 事	石 丸 周 象	津軽海峡フェリー (株) 社長
〃	北 村 隆	共栄運輸 (株) 社長
〃	下川部 善 彦	協立海上運輸 (株) 社長

役職名	氏名	会社及び役職
〃	田 上 壽 春	道東観光開発（株）社長
〃	堀 元	大沼合同遊船（株）社長
〃	江 野 英 嗣	羽幌沿海フェリー（株）社長
監 事	鈴 木 義 治	支笏湖観光運輸（株）社長

一般旅客定期航路の変遷

事業者名	住所	免許年月日	航路名
昭和20年代の旅客定期航路（昭和29年度末）			
離島、沿岸、道外			
神威航運（株）	岩内町	S 24. 12. 1	岩内～川白
道南海運（株）	函館市	S 24. 12. 1 S 25. 1. 20 S 26. 5. 24 S 28. 5. 11	奥尻対岸 福島～三厩 函館～下北 函館～三厩～松前
羅臼運輸（株）	羅臼村	S 24. 12. 1	羅臼～根室
雄冬海運（株）	増毛町	S 24. 12. 1	増毛～雄冬
浜益海運（株）	浜益村	S 24. 12. 1	小樽～浜益
北海商船（株）	東京都	S 24. 12. 1	小樽～利礼
両島運輸（株）	苫前町	S 24. 12. 1	苫前～天売
稚内利礼運輸（株）	稚内市	S 24. 12. 1	稚内～利礼
三井船舶（株）	東京都	S 29. 9. 21	釧路～芝浦
港内関係			
共同通船（株）	小樽市	S 26. 7. 1	小樽港内、小樽～祝津
共同通船（有）	函館市	S 26. 7. 1	函館港内
室蘭通船（株）	室蘭市	S 24. 12. 1 S 26. 7. 1 S 29. 7. 1	室蘭～本輪西 室蘭港内 室蘭～水族館
（株）協立組	釧路市	S 26. 7. 1	釧路港内
中野通船（株）	釧路市	S 26. 7. 1	釧路港内
湖沼関係			
支笏湖観光運輸（株）	千歳市	S 29. 6. 15	湖畔～丸駒
洞爺湖観光船（株）	虻田町	S 29. 6. 15	洞爺湖内
菱中興業（株）	苫小牧市	S 29. 6. 15	モーラップ～丸駒
昭和30年代の旅客定期航路（昭和39年度末）			
離島、沿岸、道外			
神威航運（株）	岩内町	S 24. 12. 1	岩内～川白
道南海運（株）	函館市	S 24. 12. 1	奥尻対岸
東日本フェリー（株）	函館市	S 25. 1. 20 S 26. 5. 24	福島～三厩 函館～下北
羅臼運輸（株）	網走市	S 24. 12. 1 S 35. 9. 29	羅臼～根室 羅臼～赤岩
雄冬海運（株）	増毛町	S 24. 12. 1	増毛～雄冬
北海商船（株）	東京都	S 24. 12. 1	小樽～利礼
両島運輸（株）	苫前町	S 24. 12. 1	苫前～天売
稚内利礼運輸（株）	稚内市	S 24. 12. 1	稚内～利礼
道東観光開発（株）	網走市	S 37. 6. 16 S 39. 8. 6	ウトロ～知床岬周遊、カムイワッカ 網走～ウトロ、ウトロ～羅臼
大阪商船三井船舶（株）	大阪市	S 29. 9. 21	釧路～芝浦
港内関係			
共同通船（株）	小樽市	S 26. 7. 1	小樽港内
共同通船（有）	函館市	S 26. 7. 1	函館港内

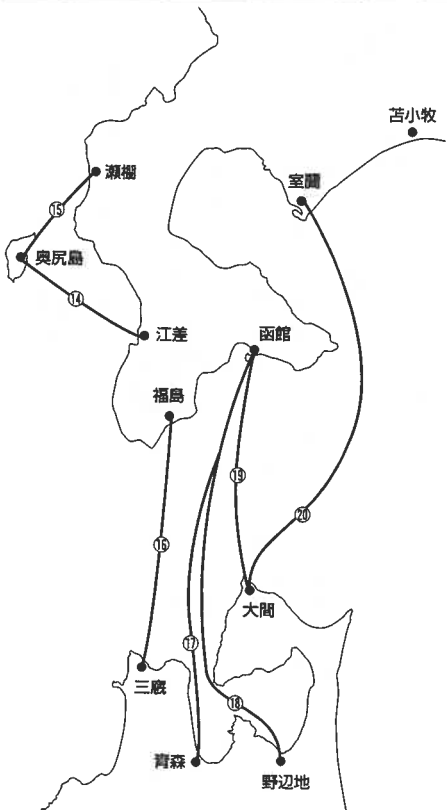
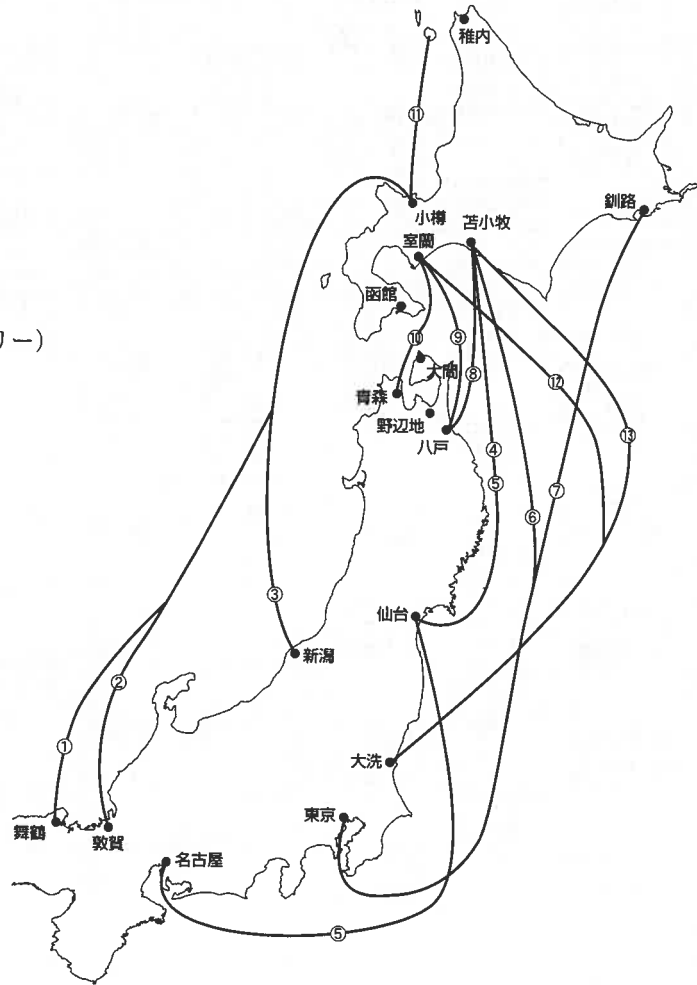
事業者名	住所	免許年月日	航路名
室蘭通船 (株)	室蘭市	S 26. 7. 1 S 29. 7. 1	室蘭港内 室蘭～水族館
(株) 協立組	釧路市	S 26. 7. 1	釧路港内
中野通船 (株)	釧路市	S 26. 7. 1	釧路港内
留萌通船 (株)	留萌市	S 38. 5. 2	留萌港内
日本道路公団	東京都	S 32. 8. 23	厚岸～真竜
湖沼関係			
両島運輸 (株)	苫前町	S 30. 6. 10	朱鞠内湖内
桂沢湖観光 (株)	三笠市	S 34. 5. 27	桂沢湖内
(株) 然別湖畔温泉ホテル	鹿追町	S 38. 7. 30	然別湖内
阿寒観光汽船 (株)	阿寒町	S 30. 4. 27	阿寒湖内
支笏湖観光運輸 (株)	千歳市	S 29. 6. 15	モーラップ～丸駒、湖畔～丸駒
洞爺湖観光船 (株)	虻田町	S 29. 6. 15	洞爺湖内
大沼合同遊船 (株)	七飯町	S 39. 6. 1	大沼湖内
昭和40年代の旅客定期航路 (昭和49年度末)			
離島、沿岸、道外			
東日本フェリー (株)	函館市	S 25. 1. 20 S 26. 5. 24 S 42. 5. 18 S 44. 4. 30 S 45. 10. 1	福島～三厩 函館～下北 函館～青森、室蘭～青森 函館～野辺地 室蘭～大間、戸井～大間
函館商船 (株)	函館市	S 45. 10. 1	函館～野辺地
新東日本フェリー (株)	札幌市	S 48. 2. 7	苫小牧～仙台
神威航運 (株)	岩内町	S 24. 12. 1 S 42. 6. 15	岩内～川白 川白～余別
雄冬海運 (株)	増毛町	S 24. 12. 1	増毛～雄冬
東日本海フェリー (株)	稚内市	S 24. 12. 1 S 24. 12. 1	江差～奥尻島 稚内～利礼
北海商船 (株)	小樽市	S 24. 12. 1	小樽～利礼
両島運輸 (株)	羽幌町	S 24. 12. 1	羽幌～天売
道東観光開発 (株)	網走市	S 37. 6. 16 S 39. 8. 6 S 44. 6. 14	ウトロ～羅臼 ウトロ～羅臼 羅臼～知床周遊
港内関係			
共同通船 (株)	小樽市	S 26. 7. 1	小樽港内
共同通船 (有)	函館市	S 26. 7. 1	函館港内
室蘭通船 (株)	室蘭市	S 26. 7. 1	室蘭港内
協立海上運輸 (株)	釧路市	S 26. 7. 1	釧路港内
中野通船 (株)	釧路市	S 26. 7. 1	釧路港内
留萌通船 (株)	留萌市	S 38. 5. 2	留萌港内
湖沼関係			
(株) 然別湖畔温泉ホテル	鹿追町	S 38. 7. 30	然別湖内
阿寒観光汽船 (株)	阿寒町	S 30. 4. 27	阿寒湖内
支笏湖観光運輸 (株)	千歳市	S 29. 6. 15	湖畔～モーラップ、丸駒
洞爺湖汽船 (株)	虻田町	S 46. 6. 26	洞爺湖内
大沼合同遊船 (株)	七飯町	S 39. 6. 1	大沼湖内
サロマ湖観光船 (株)	常呂町	S 47. 9. 13	サロマ湖
石狩町	石狩町	S 48. 4. 28	石狩本町～八幡町

事業者名	住所	免許年月日	航路名
昭和50年代の旅客定期航路 (昭和59年度末)			
離島、沿岸、道外			
東日本フェリー (株)	函館市	S 25. 1. 20	福島～三厩
		S 26. 5. 24	函館～下北
		S 42. 5. 18	函館～青森、室蘭～青森
		S 44. 4. 30	函館～野辺地
		S 45. 10. 1	室蘭～大間
		S 48. 2. 7	苫小牧～仙台
		S 50. 4. 23	苫小牧～八戸
		S 53. 11. 15 S 59. 6. 22	室蘭～八戸 室蘭～大洗
神威航運 (株)	岩内町	S 24. 12. 1	岩内～川白
		S 42. 6. 15	川白～余別
雄冬海運 (株)	増毛町	S 24. 12. 1	増毛～雄冬
東日本海フェリー (株)	稚内市	S 24. 12. 1	江差～奥尻
		S 52. 6. 21	瀬棚～奥尻
		S 24. 12. 1	稚内～利礼
北海商船フェリー (株)	小樽市	S 24. 12. 1	小樽～利礼
両島運輸 (株)	羽幌町	S 24. 12. 1	羽幌～天売
道東観光開発 (株)	網走市	S 37. 6. 16	ウトロ～知床岬
野付観光汽船 (株)	別海町	S 52. 6. 9	野付湾
港内関係			
共同通船 (有)	函館市	S 26. 7. 1	函館港内
室蘭通船 (株)	室蘭市	S 26. 7. 1	室蘭港内
協立海上運輸 (株)	釧路市	S 26. 7. 1	釧路港内
中野通船 (株)	釧路市	S 26. 7. 1	釧路港内
湖沼関係			
(株) 然別湖畔温泉ホテル	鹿追町	S 38. 7. 30	然別湖内
阿寒観光汽船 (株)	阿寒町	S 30. 4. 27	阿寒湖内
支笏湖観光運輸 (株)	千歳市	S 29. 6. 15	湖畔～丸駒
洞爺湖汽船 (株)	虻田町	S 46. 6. 26	洞爺湖内
大沼合同遊船 (株)	七飯町	S 39. 6. 1	大沼湖内
平成10年度末の旅客定期航路			
離島、沿岸、道外			
東日本フェリー (株)	函館市	S 25. 1. 20	福島～三厩
		S 26. 5. 24	函館～大間
		S 42. 5. 18	函館～青森、室蘭～青森
		S 48. 2. 7	苫小牧～仙台
		S 50. 4. 23	苫小牧～八戸
		S 53. 11. 15	室蘭～八戸
		S 59. 6. 22	室蘭～大洗
		H 1. 9. 22 H 3. 11. 27	岩内～直江津～室蘭 室蘭～大畑
東日本海フェリー (株)	札幌市	S 24. 12. 1	江差～奥尻島
		S 52. 6. 21	瀬棚～奥尻島
		S 24. 12. 1	稚内～利礼
羽幌沿海フェリー (株)	羽幌町	S 24. 12. 1	羽幌～天売
(株) 別海町観光開発公社	別海町	S 52. 6. 9	野付湾内周遊

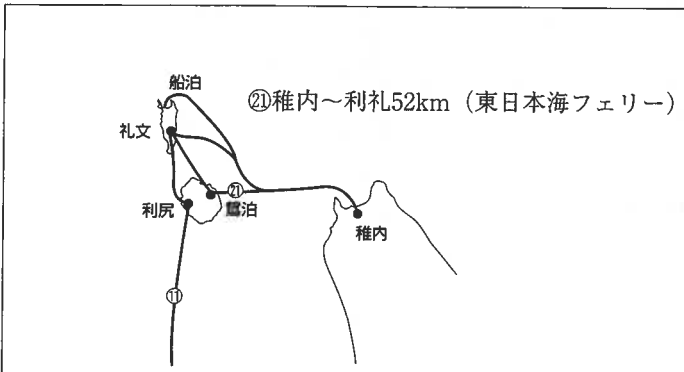
事業者名	住所	免許年月日	航路名
湖沼関係			
(株) 然別湖畔温泉ホテル	帯広市	S 38. 7. 30	然別湖内
阿寒観光汽船 (株)	阿寒町	S 30. 4. 27	阿寒湖内
洞爺湖汽船 (株)	虻田町	S 46. 6. 26	洞爺湖内
大沼合同遊船 (株)	七飯町	S 39. 6. 1	大沼湖内
平成23年10月1日現在の旅客定期航路			
離島、沿岸、道外			
北日本海運 (株)	函館市	H12. 10. 1	函館～青森
共栄運輸 (株)	函館市	H12. 10. 1	函館～青森
津軽海峡フェリー (株)	函館市	H12. 10. 1 H20. 11. 20	函館～青森 函館～大間
ハートランドフェリー (株)	札幌市	S 24. 12. 1 S 52. 6. 21 S 24. 12. 1	江差～奥尻島 瀬棚～奥尻島 稚内～利礼
羽幌沿海フェリー (株)	羽幌町	S 24. 12. 1	羽幌～天売
(株) 小樽観光振興公社	小樽市	H13. 4. 4	小樽～祝津～オタモイ周遊 小樽港内シャトル
(株) 別海町観光開発公社	別海町	S 52. 6. 9	野付湾内周遊
(有) 丸は宝来水産	羅臼町	H20. 9. 1	知床半島一周
港内関係			
(株) マルカツ興産	函館市	H20. 7. 23	函館港内シャトル
湖沼関係			
阿寒観光汽船 (株)	釧路市	S 30. 4. 27	阿寒湖内
洞爺湖汽船 (株)	虻田町	S 46. 6. 26	洞爺湖内
大沼合同遊船 (株)	七飯町	S 39. 6. 1	大沼湖内

北海道～本州及び離島フェリー航路図 昭和60年5月1日現在

- ①小樽～舞鶴 (新日本海フェリー)
1,061km
- ②小樽～敦賀 (新日本海フェリー)
1,024km
- ③小樽～新潟 (新日本海フェリー)
704km
- ④苫小牧～仙台 (東日本フェリー)
565km
- ⑤苫小牧～仙台～名古屋 (太平洋フェリー)
1,330km
- ⑥苫小牧～東京 (日本沿海フェリー)
1,032km
- ⑦釧路～東京 (近海郵船)
1,120km
- ⑧苫小牧～八戸 (シルバーフェリー)
242km (東日本フェリー)
- ⑨室蘭～八戸 (東日本フェリー)
226km
- ⑩室蘭～青森 (東日本フェリー)
204km
- ⑪小樽～利礼 (北海商船フェリー)
239km
- ⑫室蘭～大洗 (東日本フェリー)
728km
- ⑬苫小牧～大洗 (日本沿海フェリー)
758km



- ⑭江差～奥尻島 (東日本海フェリー)
61km
- ⑮瀬棚～奥尻島 (東日本海フェリー)
43km
- ⑯福島～三厩 (東日本フェリー)
38km 休止中
- ⑰函館～青森 (東日本フェリー)
113km (道南自動車フェリー)
(笹井海運作業)
(共栄運輸)
- ⑱函館～野辺地 (東日本フェリー)
124km
- ⑲函館～大間 (東日本フェリー)
40km
- ⑳室蘭～大間 (東日本フェリー)
120km 休止中



出典：北海道運輸局「北海道運輸要覧（海運編）」

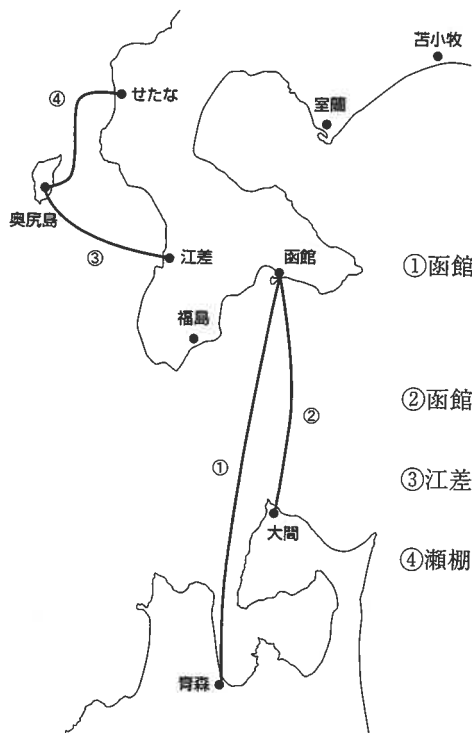
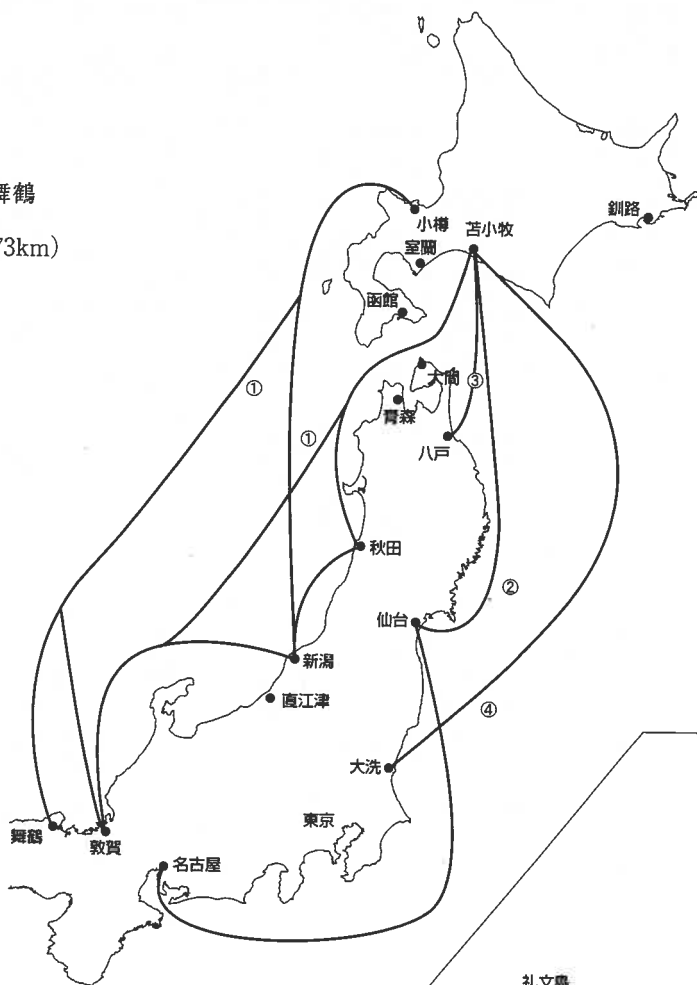
- ① 苫小牧～小樽～秋田～新潟～敦賀～舞鶴
1,818km (新日本海フェリー)
※小樽通常時抜港 (その際航路距離1,173km)

苫小牧～秋田	413km
苫小牧～新潟	637km
苫小牧～敦賀	1,074km (寄港)
〃	948km (直行)
小樽～舞鶴	1,061km
小樽～新潟	704km
小樽～敦賀	1,024km

- ② 苫小牧～仙台～名古屋 1,330km
(太平洋フェリー)

- ③ 苫小牧～八戸 242km
(川崎近海汽船)

- ④ 苫小牧～大洗 751km
(商船三井フェリー)



- ① 函館～青森 113km
(津軽海峡フェリー)
(北日本海運)
(共栄運輸)
- ② 函館～大間 40km
(津軽海峡フェリー)
- ③ 江差～奥尻 61km
(ハートランドフェリー)
- ④ 瀬棚～奥尻 43km
(ハートランドフェリー)



- ① 稚内～利尻 (鴛泊) 52km
(ハートランドフェリー)
- ② 稚内～礼文 (香深) 59km
(ハートランドフェリー)
- ③ 利尻 (鴛泊・杵形)～礼文 (香深) 19km
(ハートランドフェリー)
- ④ 羽幌～焼尻～天売 35km
(羽幌沿海フェリー)

* 北海道運輸局海事振興部資料

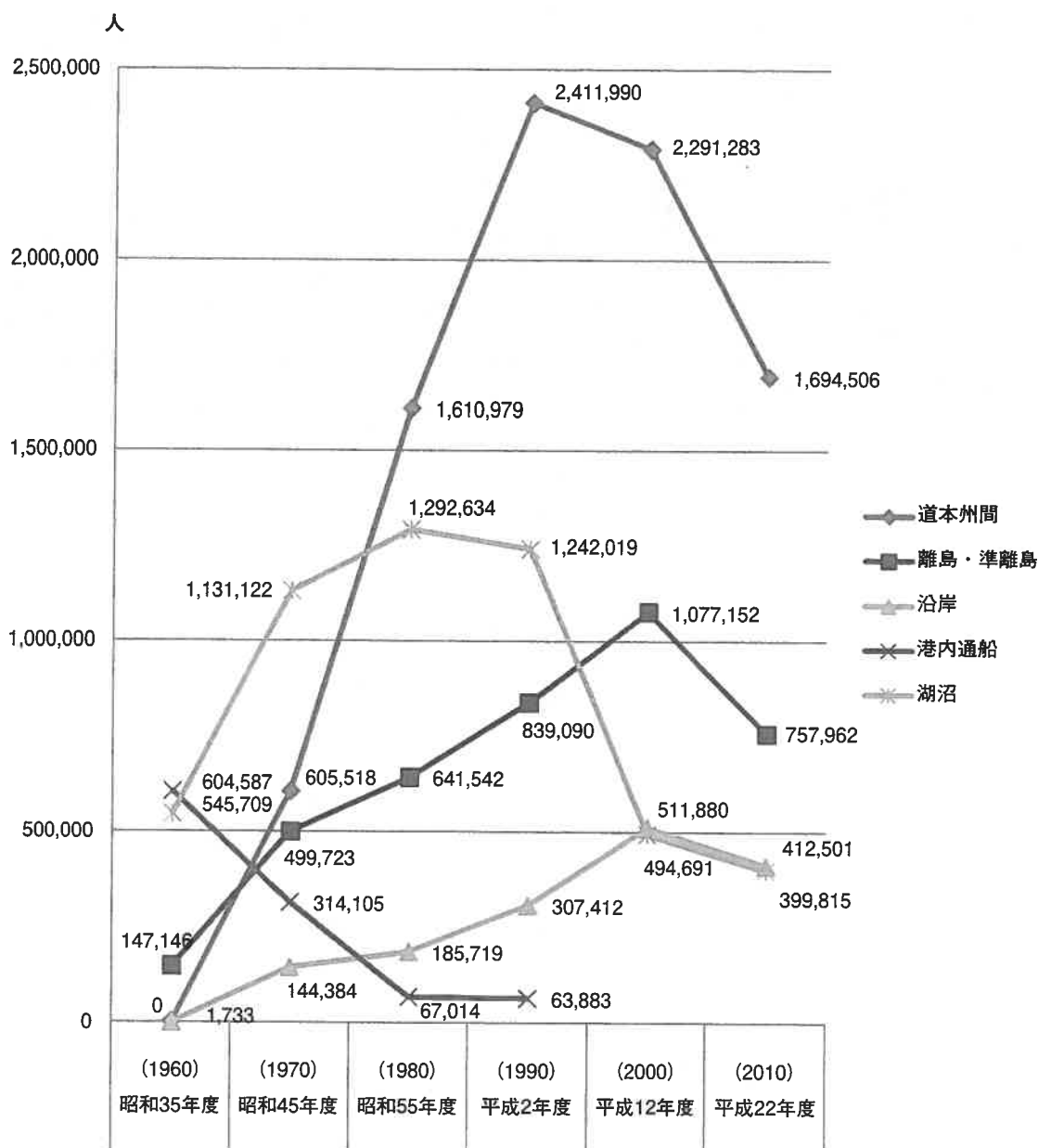
旅客航路事業の輸送実績推移

	北海道～本州	離島・準離島	港内通船/遊覧	沿 岸	湖 沼
昭和35年度	1,733	147,146	604,587	0	545,709
昭和36年度	1,686	177,951	561,141	0	693,888
昭和37年度	1,581	205,672	606,596	23,857	854,612
昭和38年度	1,300	237,769	470,816	44,662	1,007,935
昭和39年度	26,935	261,995	451,953	68,483	885,334
昭和40年度	24,931	282,227	474,002	72,298	905,088
昭和41年度	54,021	284,596	388,245	79,376	969,729
昭和42年度	170,629	303,298	336,121	92,395	967,535
昭和43年度	312,856	348,624	286,801	106,775	1,045,584
昭和44年度	362,425	417,625	301,391	119,124	1,098,379
昭和45年度	605,518	499,723	314,105	144,384	1,131,122
昭和46年度	866,750	574,678	259,248	200,167	1,266,509
昭和47年度	1,133,175	621,686	258,996	219,149	1,222,740
昭和48年度	1,633,070	719,735	208,305	224,065	1,513,167
昭和49年度	1,387,154	706,366	193,108	242,926	1,631,808
昭和50年度	1,699,193	666,888	131,359	200,061	1,447,926
昭和51年度	1,732,377	641,724	203,012	218,930	1,555,478
昭和52年度	1,601,698	617,852	147,434	206,320	1,283,372
昭和53年度	1,650,763	626,029	140,387	201,374	1,242,800
昭和54年度	1,672,202	631,649	127,548	198,284	1,293,853
昭和55年度	1,610,979	641,542	67,014	185,719	1,292,634
昭和56年度	1,513,709	557,610	64,611	164,695	1,213,935
昭和57年度	1,528,155	598,711	52,835	210,733	1,196,294
昭和58年度	1,489,764	583,422	52,250	194,635	1,137,111
昭和59年度	1,522,767	580,401	43,650	278,418	1,179,665
昭和60年度	1,574,283	609,577	53,675	197,328	1,152,678
昭和61年度	1,664,922	615,402	67,697	219,023	1,120,902
昭和62年度	1,799,562	630,643	64,370	238,279	1,139,648
昭和63年度	1,991,288	660,795	49,480	254,887	1,096,755
平成1年度	2,200,446	756,391	41,717	251,905	1,211,228
平成2年度	2,411,990	839,090	63,883	307,412	1,242,019
平成3年度	2,631,325	953,589	124,719	329,908	1,272,591
平成4年度	2,677,715	926,109	145,245	275,244	1,115,274
平成5年度	2,567,519	879,227	420,516		985,918
平成6年度	2,699,301	919,192	472,527		921,898
平成7年度	2,592,888	967,910	474,381		867,741
平成8年度	2,579,838	1,011,932	473,722		797,057
平成9年度	2,542,084	1,039,555	522,313		770,703
平成10年度	2,407,157	1,042,832	514,020		711,603
平成11年度	2,370,983	1,084,787	556,639		694,094
平成12年度	2,291,283	1,077,152	511,880		494,691
平成13年度	2,258,576	1,187,523	522,942		579,417
平成14年度	2,180,224	1,201,830	558,994		560,489
平成15年度	2,080,242	1,182,496	481,631		543,730
平成16年度	2,083,640	1,088,524	547,918		522,269
平成17年度	2,023,995	1,000,140	497,111		497,191
平成18年度	1,975,159	964,922	560,503		470,134
平成19年度	1,997,006	889,097	513,117		488,794
平成20年度	1,949,572	832,958	439,388		431,806
平成21年度	1,732,228	779,946	404,194		385,599
平成22年度	1,694,505	757,962	412,501		399,815

- ※1 北海道運輸局海事振興部資料による。
 2 日本道路公団の厚岸～真竜航路（昭和47年廃止）の実績は含まれていない。
 3 昭和44年から昭和58年までは暦年の実績である。
 4 昭和48年から昭和52年の湖沼の実績には石狩市の石狩渡船航路の実績が含まれている。

	昭和35年度 (1960)	昭和45年度 (1970)	昭和55年度 (1980)	平成2年度 (1990)	平成12年度 (2000)	平成22年度 (2010)
北海道～本州	1,733	605,518	1,610,979	2,411,990	2,291,283	1,694,505
離島・準離島	147,146	499,723	641,542	839,090	1,077,152	757,962
沿岸	—	144,384	185,719	307,412	511,880	412,501
港内通船	604,587	314,105	67,014	63,883		
湖沼	545,709	1,131,122	1,292,634	1,242,019	494,691	399,815
厚岸湾	1,609,022	1,176,441	—	—	—	—
計	2,908,197	3,871,293	3,797,888	4,864,394	4,375,006	3,264,783

* 昭和45年度の輸送実績は暦年の実績である。



* 平成12年度及び22年度の港内通船の輸送実績は、沿岸の輸送実績に含まれる。

会員各社の概要

本州航路

平成23年10月1日現在

会社名	北日本海運株式会社	代表者	久保 雅和
住所	函館市浅野町5番22号		
使用船	あさかぜ21 (2,048ト) あさかぜ5号 (1,958ト)		
航路名	函館～青森 (平成12年10月1日許可)		

会社名	共栄運輸株式会社	代表者	北村 隆
住所	函館市海岸町22番5号		
使用船	3号はやぶさ (2,107ト) はやぶさ (1,777ト)		
航路名	函館～青森 (平成12年10月1日許可)		

会社名	津軽海峡フェリー株式会社	代表者	石丸 周象
住所	函館市港町3丁目19番2号		
使用船	えさん2000 (2,367ト) びなす (7,198ト) びるご (6,706ト) ブルードルフィン (7,003ト) ナッチャンWorld (10,715ト) ばあゆ (1,529ト)		
航路名	函館～青森 (平成12年10月1日許可) 函館～大間 (平成20年11月20日許可)		

会社名	川崎近海汽船株式会社	代表者	森原 明
住所	東京都千代田区霞が関1丁目4番2号 大同生命霞ヶ関ビル		
使用船	フェリーはちのへ (5,603ト) シルバークイーン (7,005ト) べが (6,698ト) べにりあ (6,558ト)		
航路名	苫小牧～八戸 (昭和47年9月18日許可)		

会社名	商船三井フェリー株式会社	代表者	鈴木 修
住所	東京都品川区東五反田2丁目10番2号 東五反田スクエア		
使用船	さんふらわしれとこ (11,410ト) さんふらわたいせつ (11,401ト) さんふらわさっぽろ (13,654ト) さんふらわふらの (13,539ト)		
航路名	苫小牧～大洗 (平成13年6月18日許可)		

会社名	新日本海フェリー株式会社	代表者	入谷 泰生
住所	大阪市北区梅田2丁目5番25号 梅田阪神第一ビル		
使用船	はまなす (16,810ト) あかしあ (16,810ト) らいらっく (18,229ト) ゆうかり (18,229ト) フェリーあざれあ (20,554ト) フェリーしらかば (20,563ト) すずらん (17,345ト) すいせん (17,329ト)		
航路名	舞鶴～敦賀～新潟～秋田～小樽～苫小牧 (平成15年6月10日許可)		

会社名	太平洋フェリー株式会社	代表者	渡邊 哲郎
住所	名古屋市中村区名駅2丁目24番8号 EME名古屋ビル		
使用船	きそ (15,795ト) きたかみ (13,937ト) いしかり (15,762ト)		
航路名	苫小牧～仙台～名古屋 (昭和46年5月28日許可)		

離島航路

会社名	ハートランドフェリー株式会社	代表者	蔦井 孝典
住所	札幌市中央区大通西8丁目2番地 住友商事・フカミヤ大通ビル		
使用船	アヴローラおくしり (2,248ト) アインス宗谷 (2,628ト) フィルイーズ宗谷 (3,551ト) ボレアース宗谷 (3,578ト) サイプリア宗谷 (3,555ト)		
航路名	江差～奥尻島 (昭和24年12月1日許可) 瀬棚～奥尻島 (昭和52年6月21日許可) 稚内～利礼 (昭和24年12月1日許可)		

会社名	羽幌沿海フェリー株式会社	代表者	江野 英嗣
住所	苫前郡羽幌町港町1丁目		
使用船	おろろん2 (489ト) さんらいなあ (149ト)		
航路名	羽幌～天売 (昭和24年12月1日許可)		

通船航路

会社名	協立海上運輸株式会社	代表者	下川部善彦
住所	釧路市西港1丁目100番地15		
使用船	とも丸 (12ト) とき丸 (6ト) かく丸 (7ト) ひろ丸 (8ト) あき丸 (6ト)		
航路名	釧路港内 (昭和31年4月10日許可) 西港周遊 (昭和61年7月24日許可) 東北海道周遊 (平成元年6月30日許可)		

会社名	中野通船株式会社	代表者	堀 泰幸
住所	釧路市港町2番7号		
使用船	北新丸 (7ト) 第五新裕丸 (5ト未満)		
航路名	釧路港内 (昭和37年11月9日許可)		

観光航路 (沿岸)

会社名	株式会社一映マリーン企画	代表者	和高 友宏
住所	函館市港町1丁目35番7号		
使用船	はまなす (19ト) Blue Sky (5ト)		
航路名	函館港内外遊覧 (平成14年12月18日許可)		

会社名	株式会社小樽観光振興公社	代表者	山田 厚
住所	小樽市港町4番2号		
使用船	オタモイ号 (19ト) 祝津号 (19ト) かいよう (18ト)		
航路名	小樽～祝津～オタモイ周遊 (平成13年4月4日許可) 小樽港内シャトル (平成13年4月4日許可) 小樽港内遊覧 (平成元年5月16日許可)		

会社名	オホーツク・ガリンコタワー株式会社	代表者	宮川 良一
住所	紋別市海洋公園1番地		
使用船	ガリンコ号2 (150ト)		
航路名	オホーツク観光 (平成8年2月19日許可)		

会社名	グラスポート利尻株式会社	代表者	松村 栄悦
住所	利尻郡利尻町杓形字富士見町26番地		
使用船	はまなす (16ト)		
航路名	利尻島杓形港～タネトンナイ湾 (平成3年4月4日許可) 利尻島杓形港～マダワッカ湾 (平成3年4月4日許可) 香深港内 (平成22年7月28日許可)		

会社名	株式会社積丹観光振興公社	代表者	杉山 覚
住所	積丹郡積丹町大字美国町字船濶173番地の5		
使用船	ニューしゃこたん号 (19ト)		
航路名	美国～キト浜周遊 (昭和61年5月8日許可)		

会社名	道東観光開発株式会社	代表者	田上 壽春
住所	網走市字呼人23番地3		
使用船	おーろら (491ト) おーろら2 (489ト)		
航路名	網走港内 (平成2年9月3日許可) 能取岬 (平成2年9月3日許可) 沖合 (平成2年9月3日許可) ウトロ～知床岬 (平成8年4月11日許可)		

会社名	株式会社ビッグブルー	代表者	池田 欽也
住所	札幌市中央区南1条西22丁目1-3		
使用船	グッドフェローズ (12ト)		
航路名	石狩積丹 (平成15年5月14日許可)		

会社名	有限会社ヒットカラーテン	代表者	渡部佐久子
住所	北見市若葉4丁目1番2号		
使用船	FOX-II (13ト) BROWN BEAR (5ト)		
航路名	知床半島 (平成17年4月27日許可)		

会社名	スターマリン株式会社	代表者	山田 享広
住所	室蘭市祝津町1丁目127番地12		
使用船	RISING SUN (18ト) 神龍丸 (6ト) RISING STAR (12ト)		
航路名	室蘭港内 (平成23年3月15日届出)		

会社名	株式会社別海町観光開発公社	代表者	水沼 猛
住所	野付郡別海町野付63番地		
使用船	レインボー (18ト) パワードリーム号 (19ト) アサヒ号 (5ト未満)		
航路名	野付湾内周遊 (昭和52年6月9日許可) 尾岱沼～アラハマワンド (平成13年4月20日許可) 野付半島 (平成22年4月23日許可)		

会社名	株式会社マリンウェーブ小樽	代表者	中松 義治
住所	小樽市築港5番7号		
使用船	マリンウェーブ2 (12ト) マリンウェーブⅢ (14ト)		
航路名	小樽港内及び小樽～余市～積丹方面 (平成17年2月25日届出) (築港マリーナ発着) 小樽港内及び小樽～余市～積丹方面 (平成18年3月3日届出) (第3ふ頭発着) 小樽港マリーナ～美国漁港～小樽港マリーナ (平成23年5月31日届出)		

会社名	株式会社マルカツ興産	代表者	柳沢 政人
住所	函館市豊川町12番12号		
使用船	ブルームーン (199ト)		
航路名	函館港内シャトル (平成20年7月23日許可) 函館港内 (昭和31年4月7日許可) 函館～寒川周遊 (昭和60年9月20日許可)		

会社名	有限会社丸は宝来水産	代表者	小林 廣幸
住所	目梨郡羅臼町海岸町74番地		
使用船	カムイワッカ (18ト) カムイワッカ3 (5ト未満) カムイワッカ55 (14ト) カムイワッカ88 (19ト)		
航路名	知床半島一周 (平成20年9月1日許可) 羅臼港沖合周遊 (平成13年1月25日許可) 知床半島遊覧 (平成13年6月8日許可) 宇登呂漁港沖合周遊 (平成13年6月22日許可) 知床半島遊覧・宇登呂漁港沖合周遊 (平成23年9月1日許可)		

会社名	株式会社まるみ	代表者	湊 謙一
住所	目梨郡羅臼町八木浜24番地		
使用船	アルラン三世 (17ト) アルランI世 (5ト未満)		
航路名	羅臼沖合航路 (平成10年4月22日許可) 標津方面航路 (平成10年4月22日許可) 知床岬航路 (平成12年6月22日許可)		

観光航路（湖沼）

会社名	阿寒観光汽船株式会社	代表者	小林 一之
住所	釧路市阿寒湖町阿寒湖温泉1丁目5番20号		
使用船	ましゅう丸（187ト）のぞみ3号（5ト未満）のぞみ5号（5ト未満） のぞみ6号（5ト未満）のぞみ7号（5ト未満）まりも丸（188ト）すずらん丸（221ト） くろゆり（43ト）ひかり2号（5ト未満）ひかり6号（5ト未満）メイル1（5ト未満） メイル2（5ト未満）メイル3（5ト未満）		
航路名	阿寒湖内（昭和30年4月27日（定期）許可、昭和31年4月27日（不定期）許可） 阿寒湖小島周辺周遊（昭和60年8月10日許可）		

会社名	大沼合同遊船株式会社	代表者	堀 元
住所	亀田郡七飯町字大沼1023-1		
使用船	第二おおぬま（18ト）おおぬま（17ト）呉竹（17ト）はまなす（12ト）渚（10ト） Land View51（5ト未満）Land View52（5ト未満）Land View53（5ト未満） Land View55（5ト未満）Land View56（5ト未満）Land View57（5ト未満） Land View58（5ト未満）Land View61（5ト未満）みさき（5ト未満） もみじ（5ト未満）第二楓丸（5ト未満）みしま（5ト未満）		
航路名	大沼湖内（昭和39年6月1日（定期）許可、昭和37年4月23日（不定期）許可）		

会社名	株式会社北見自動車検査センター	代表者	相原 健司
住所	北見市三輪26番地14		
使用船	アザラシ（5ト未満）、アザラシ（5ト未満）		
航路名	サロマ湖一周アザラシ号（平成19年9月28日許可）		

会社名	株式会社然別湖畔温泉ホテル	代表者	中木雄三郎
住所	帯広市西18条北1丁目14番36号		
使用船	第一いさを（19ト）いさを（19ト）		
航路名	然別湖内（昭和32年9月9日許可）		

会社名	支笏湖観光運輸株式会社	代表者	鈴木 義治
住所	千歳市支笏湖温泉番外地		
使用船	フェニックス（5ト未満）GALAXY（5ト未満）エメラルド（18ト）サファイア（17ト）		
航路名	支笏湖内周遊（昭和43年4月26日許可）		

会社名	朱鞠内観光汽船株式会社	代表者	谷川 昇
住所	雨竜郡幌加内町朱鞠内		
使用船	うきしま（11ト）昇竜丸（5ト未満）		
航路名	朱鞠内湖内周遊（昭和62年6月9日許可）		

会社名	洞爺湖汽船株式会社	代表者	朝倉 英隆
住所	虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉29番地		
使用船	エスポール (40ト) 幸福 (332ト) 羊蹄 (346ト) しののめ (17ト) 高速2000 (19ト) Dolphin (5ト未満) TOMCAT 23-1 (5ト未満) ファントム (5ト未満)		
航路名	洞爺湖内 (昭和46年6月26日 (定期) 許可、昭和52年4月27日 (不定期) 許可) 洞爺湖内第2航路 (昭和61年6月11日許可)		

北海道旅客船協会会則（昭和34年8月施行）

改正 昭和36年 5月
昭和37年 4月
昭和48年 11月
昭和56年 3月
平成13年 6月
平成18年 5月

第1章 総 則

第1条 本会は、北海道旅客船協会と称する。

第2条 本会の事務所は、小樽市に置く。

第3条 本会は、旅客航路事業の改善発達を図り、もって北海道における水上交通並びに水上観光等の振興に資することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、法令の定める範囲内において次の事業を行う。

- (1) 会員相互の親睦及び意見の交換。
- (2) 旅客航路事業に関する諸般の調査研究並びに情報の収集及び頒布。
- (3) 旅客航路事業に関する官公庁及び関係団体との連絡。
- (4) 旅客航路事業の保険に関する事項。
- (5) 旅客航路事業に関する施設の改善及び宣伝。
- (6) その他本会の目的を達成するため必要な事項。

第2章 会 員

第5条 本会の会員は、正会員及び賛助会員とする。

2. 正会員は、国土交通大臣の許可を受け、北海道において旅客航路事業を営む者で、理事会の承認を得たものとする。

3. 賛助会員は、本会の趣旨に賛同する運輸交通、産業又は文化に関係ある個人、法人又は団体で、理事会の承認を得たものとする。

4. 会員が法人又は団体である場合には、その代表者を定め、これを本会に届けなければならない。

届出のあった代表者に変更を生じた場合には、1ヶ月以内に新代表者を本会に届けなければならない。

第6条 本会に加入しようとする者は、別に定める加入金を添え書面をもって会長に申し込むものとする。

2. 会長は前項の申し込みをうけたときは、それを理事会に諮り遅滞なく決定しなければならない。

第6条の2 正会員は、会費を納めなければならない。

第7条 会員が、退会しようとするときは、書面をもって会長に届け出なければならない。

第7条の2 会員が次の各号の1に該当するときは、理事会の決議によって退会を勧告し、及び総会の決議によってこれを除名することが出来る。

(1) 本会の名誉を汚し、又は信用を失うような行為があったとき。

(2) 会則又は総会の決議を無視する行為があったとき。

(3) 1年以上にわたり会費を滞納したとき。

第7条の3 会員は、第5条の会員でなくなった場合において本会の財産に対する権利を主張することができない。

第3章 機 関

第1節 役員等

第8条 本会に次の役員を置く。

会 長 1名

副 会 長 3名以内

理 事 若干名

監 事 3名以内

第9条 本会の役員を選任は、次の方法をとる。

(1) 理事及び監事は、総会において正会員中より選挙する。

- (2) 会長及び副会長は、理事会において互選する。
- (3) 会長及び副会長は、理事の資格を有する。
- (4) 会長は前記理事のほかに、専務理事を理事会に諮り決定することができる。

第10条 役員の任期は、2年とする。補欠により選任せられた役員の任期は前任者の残任期間とする。

但し、再任を妨げない。

第11条 会長は、本会を代表し、本会の会務を総理し、総会及び理事会を招集し、その議長となる。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

3. 専務理事は、会長、副会長を補佐し会務を管掌する。

第12条 理事は、理事会を組織して、会則及び総会の決議に従い会務を執行する。

2. 理事会は、理事3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3. 理事会の議決は、出席理事の3分の2以上をもってする。

4. 特に緊急を要する事案については、前2項の規定にかかわらず書面をもって表決することを妨げない。

第13条 監事は、本会の会計及び業務の状況を監査する。

2. 監事は、総会及び理事会において意見を述べるができる。

第14条 役員は、これを名誉職とする。

第15条 会長は、理事会の同意を得て顧問若干名を置くことができる。

第15条の2 本会に事務局を置く。事務局に職員又は嘱託を置くことができる。

2. 事務局に関する規定は、理事会の審議を経て別に定める。

第2節 総会

第16条 総会は、会則に定める事項その他重要な事項を議決する。

第17条 通常総会は、毎年1回これを招集する。

第17条の2 臨時総会は、次の場合に招集する。

- (1) 会長が必要あると認めたとき。
- (2) 3分の1以上の正会員から会議の目的である事項を書面をもって、会長に対し請求があったとき。

2. 前項第2号の請求があったときは、会長は、その請求を受けた日から30日以内に総会を招集しなければならない。

第18条 総会の開催の日時及び場所並びに議案は、理事会の承認を得て会員に対し総会開催の14日前まで通知しなければならない。

第19条 総会は、正会員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。

2. 総会の議事は出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第20条 各会員は、総会において1個の議決権を有する。

第21条 会則を変更し又は解散するには第19条の第2項の規定にかかわらず出席正会員の3分の2以上の議決を必要とする。

第22条 総会を開催したときは、その議事録を作成して議長並びに出席した理事及び監事がこれに署名して、本会の事務所に備え置かなければならない。

第3節 部 会

第22条の2 会長は、本会の事業の円滑な運営を図るため必要と認めるときは、理事会の議決を得て部会を置くことができる。

2. 部会に関する必要な事項は、理事会の議決を得て会長が別に定める。

第4章 資 産

第23条 本会の財源は、加入金・会費・寄附金及び雑収入をもってこれに充てる。

第24条 第6条の2の会費及びその納入方法は、別に定める。

第5章 計 算

第25条 本会の事業年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第26条 会長は、理事会の審議を経て前事業年度における財産目録、貸借対照表、収支決算、業務報告書及び収支予算表を作成し、これを通常総会に提出し又その承認を求めなければならない。

第27条 監事は、総会に提出する決算書類を監査し、総会においてその意見を発表しなければならない。

第28条 第26条の規定によって総会の承認を経て書類その他一切の会計帳簿及び記録は、これを本会の事務所に備えて置かなければならない。

第6章 解 散

第29条 削除

第30条 本会解散の際、財産を処分するには総会の議決を必要とする。

表紙写真 船から見る100選入選作品から

月と流水 氷海遊覧 (日の出クルーズ)	静寂 函館～青森
海の上から見る夜景も いいんでないかい函館 函館～寒川周遊	利尻富士 稚内～利尻
曙光 羅臼港沖合周遊	白い海 流水観光

北海道旅客協会65年のあゆみ

平成23年10月

発行 北海道旅客船協会

〒047-0031

北海道小樽市色内1-2-18 浜ビル

☎ 0134-25-9520

印刷 柏楊印刷株式会社

北海道旅客船協会

<http://www.ho-ships.jp/>